WASON
HQ
1.J64
574+

Mar. 1892
no. 309

女學雜誌

第三百九號
明治二十五年三月十九日發兌

孤兒之友

我國老ひし乎　愛山生

顯微望遠　社說

加羅枕新葉末　透谷生

菅原道實

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

雜 女 誌 學

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 309. March 19th. 1892.

第三百九號目次

EDITORIAL :—Looking into Self as well as Over the World at large.

LEADING ARTICLE :—Has our country become superannuated?

NOVEL :—Ren-ge-so (concluded).

MISCELLANIES :—Soondei-bai; After the snow storm (concluded).

CRITICAL NOTES :—For the Orphan Asylum.

CONCERNING WOMEN.

NEWS OF THE WEEK.

●社說　顯微及び望遠

●論說　我國老せし乎（愛山生）

●小說　蓮華草（ひさご）

●雜錄　印度女流改革者スンデルバイ○京城の雪のあした

●批評　茄羅枕及び新葉末集○經國○菅原道實

孤兒之友

●女報

皇后陛下
明宮殿下
御覽濟の書

再版

（リツトル。ロード。フオントルロイ）

小公子

巖本善治妻譯

小供のよみ本

譯者の序に曰く、母と共に野外に逍遙する幼兒が、幹のくねり、尋常ならぬ一本の立木に指ざして、かあさん、あの木は小さい時誰かに踏れたのですネィ、と申たどか。考えて見ますと、美事に發育すべきものを遮ぎり、素直に生ひ立つ筈の者をくねらせる程、無情なとは實に稀で御坐り升。邪道に陷らふとする父の足をとゝめ、卑屈に流れ行く母の心に高潔の德を思ひ起させるは、神聖なる天職を擔ふ可愛の幼兒に限ります。私は深く幼子を愛し其恩を思ふ者故、此珍重すべきまろうどを侚一層優待したいと切に願ふ者ですと。斯る主意にて譯成る。原著は近頃英米に轟き渡り、子供の讀物として愛々しきと潔き事の類ひ無きは更にも言ず、白髮の老者も心頑なの人も、之を讀る間は天使に接する如しとて、推賞大方ならず、改版十數回、且侚ほ劇に演して非常の喝采を博しぬ。譯者は斯る原文の味を損せじとて辛苦せられ、紙數二百八十貢、密書十四箇入の大本として今日世に進め玉へり。

一冊正價三十八錢。郵稅八錢也

（批評）○十一月十五日讀賣新聞○經濟雜誌五百九拾八號○幾谷季雄君○十一月十三日報知新聞○十一月十七日中央新聞○早稻田文學四號○國民の友百卅八號○十一月廿六日國民新聞○十一月十七日中正日報○亞細亞廿二號○護激廿二號○下田歌子君○中島俊子君○石橋忍月君○一月十六日自由新聞

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第三百九號
明治二十五年三月十九日發兌

社説

顯微及び望遠

賢こき商人は、細かに豫算し確かに成功を期せずんば、資本を下すとなし。老練せる大將は、謀、帷幄の内に熟し、勝算堅く立たずんば、軍を出すとなし。そは、自個假想の難儀にだに勝つと能はずば、實際不測の妨害に會ひて、之を打破らんと極めて難ければ也。之を、兵法に、先づ心中の敵を殺すと云ふ。心中の敵、先づ死せず、安くんぞ能く心外の敵を倒さんや。

支那の大聖は、射道を以て之を教えたり、云く、射らんとするものは、先づ己を正ふすべし、手元一分の狂ひは、先方十尺の懸隔となる、故に先づ、自個一身に於て動かざるべし、自個動いて定まらずば、鵠の動くにひとし、何を以てか命中せんと。日本封建の武士、亦た子に教えて云く、劍を提さげて敵に向はゞ、先づ心中の憶病を刺すべし、自個腹中の賊未だ倒れざるに、何を以てか能く敵に勝たんと。

此等は皆な其源を養なふの義なり。源涸れて流の溢るゝとはあらず。わが心未だ正しからずば、其事業亦た正しきとある可らず、わが心未だ愛に滿ちずば、其事業亦た愛に滿るとある可らず。そは、無より有を生ぜず、死より生を出さゞるによる。地を離れて人あるとなし、斯の如く、人を離れて事業あるとなし。事業とは即はち人の心の影なり、心すでに黒し、其影何をもてか黒からざるを得ん。われ既に人を熱愛せず、人の亦た我を熱愛せざるは當然なり、われ既に欠行あり、人の我を非るは當然なり。當然の事は必らずや來る、何んとなれば、これ當然の因果なればなり。暫らく其果の熟せざるを僥倖し、一時の夢を朝の來らざるに結ぶ、遂に心を驚かさずと云ふとなし。

此故に、君子は先づ深く修養す、修養足らずして奔走するは、たま〳〵蹉跌を要め、溝壑にいそぐに異ならず。われら、世上流行の見なるものを見る、學校を卒業し、數十卷の書を頭腦中に刻み、一と通りの道理を承知したり、此に於てか、人事すでに成すべしと信じ、輕然、浮馬に乘つて都の市頭に出

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

づ、競馬欄外の看客、半日の慰さみに手をうつて喝采すれば、才子いよ〳〵圖に乘りて走る、暫らくして落馬し、砂塵に葬られざるものはあらず。

試みに、過去十餘年間を回想し、日本社會の所云る國士にして、知德日時と共に長じ、步武年月と共に進み、齊々堂々として王の軍の前程に行くが如かりしもの、そも〳〵幾人ありや。俄然として燦めき、忽焉として沒る、たとへば夏の夜の流星に似たり。生命何んぞ短かきや。

如此きは、皆な先づ修養せざるの過ちなり。未だ鍛練せず、何によりて盤根錯節を切らんや。度胸未だ据らず、何をもて人を動かさんとするや、智慧未だ明ならず、何をもて人を解かんとするや、德未だ長ぜず、何をもて人を安んぜんとするや。初めに修養して深く藏るゝは、后に万里を飛ぶの謂なり。天の水、地下に竄すること、いよ〳〵深くして、后に天に上ること、いよ〳〵高し。未だ先づ藏れずして、后に能く顯はるゝものはあらず。

事業とは、自個を善くし、亦た他人を善くすることなり。故に修養は即はち事業なり。朝に道を聞き、夕べに死す、未だ一事を爲さずと云ふものありとも、彼は既に其事業を爲したり。修養の事業先づ成る、而して后ち發して人を益す。自個の過ちを改めたる經驗を用ひて、人の過を改むることに使ふ、自個の疑を晴したる理解を用ひて、人の疑を晴らすことに使ふ、自個の安心決意したる立命の地を用ひて、人の立つに供ふ。國家の經濟を理するは、わが一家庖厨の經濟を理したる經驗を用ふ。道に大小なし、發して之を用ふ、適せずと云ふことなし。要は、先づ之を自個に於てすることなり。天は、自個をして先づ試驗せしむ、而してのち他に向はしむ。他の衆を愛することの重きのみならず、亦われ一個をも愛し玉ふがゆへ也。われに於て先づ此の試驗を了せずんば、不意不測の毒を衆の上に與ふることゝならん。天は先づ我を戒しめて、此事を爲さしめず、之れ其の大恵なり。

既に自個に省りみ、一身の修養成る、則はち當に山を出づべし。既に山を出でゝ、世上万衆の益を爲さんと欲す、須からく大觀廣察すべし。斷じて細々小々の内に沒す可らず。博く人類を愛すべし、此の中心より推及して當に一個の不具者をも愛すべし、博く滿天下を通覽すべし、此の大觀より察下し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て、當に吾國の小村落をも重んずべし。たゞ、其思慮の懸る所ろ、其理想の上る所ろ、其經綸の立つ所ろ、人に向つては、總ての人類なるべし、國に對しては、總ての万國なるべし、此の上より打算し來りて、切に一個人をも愛し、重く一村をも考ふべし、苟くも然らず、苟々且々として、局促齷齪の内に窮思屈托すれば、所云る、邦家同胞の爲にすとなす所ろのものも、遂に之を益するとあらず。

政黨に勝負するもの、亦これ憂國の士なり、官民に與奪するもの、亦た海外の景況を知らざるにあらじ。然れども、一心これ天、全身これ地、假りに、人生に寄寓して、此土に七十の命を畫き、逆旅に宿りて、われ相應の天職を爲し、氣、宇宙を呑み、思ひ、五大洲に渉るもの、密かに一思する所ろによれば、實に是れ分もなきことと觀ぜられ、一輕笑に附するの外なきことを覺ゆるなるべし。

吾人は漠然として大言を吐く細膽小心の人を忌む。故に僞はりて、右の如く大言するの人あらば、之を斥ぞけて去らしむべし。左れど、深く自修したる眞人の胸臆は、實に斯の如くなるとを疑ふ能はず。

たゞ英雄は細心す、大觀するもの決して小事を棄つるにはあらず、小事を棄てざるの思ひを用ひて、擴げて大觀の用となす也。天地の造り主は、髮の毛一すぢだに棄てず、氣、宇内を呑むものは、能く一小村落の村長となる也。

近ごろ、對外策と云ふもの、切りに演說せらる。或は、兵備を擴張すべしと云ひ、或は商賣を隆んにすべしと云ひ、中には支那朝鮮を取るべしなどゝ云ふものあり、政黨、官民、などの問題に屈托するものよりは、稍や壯んなり。

然れども、吾人は其一層大觀せんとを望むもの也。シベリア鐵道の外に掛念すべきものあらざるか、歐米の大勢は決して然らざるとを見る。商賣隆んなれば、國富むべきか、チヤルデアも亦亡びざる可らず。支那朝鮮は何如にして取るべきか、殆んど、一笑の外なし。吾人は此の大觀よりして更に細視に反る。いはく、日本國民先づ、健全、忠直、善良、剛正ならずんば、何事を爲すとも不可なりと。日本が外に對する前には、日本先づ自ら修養すべし。

吾人は、今の人が、銘々、顯微鏡と望遠鏡との二つを所有せんとを望むもの也。

論説

我國老ひたる乎

愛山生。

天下尤も詮方なき者は二、曰く老ゆると、曰く死ぬると、而して老は死の始めなり。

人の漸く老に赴くや、自ら知らざるなり。花の朝、月の夕、白駒は隙を追ふて奔れども、人多く自覺せざるなり。而して此裏に人は老去るなり、一枚の歯零つ猶氣付ざるなり、數絲の髪脱し、數絲の鬢白し、而して猶氣付ざるなり、乃ち氣付と雖も終に之を救ふべからざるなり、國も亦斯の如し、戰亂猶平ぐべし、不平猶和ぐべし、壓制猶緩むべし、非政改むべし、只夫れ人心漸く有爲の氣象を失ひ、擧國頽然として老ゆるに至ては、殆んど之を救ふ能はざらんとす。如何なる之を國の老するといふや　凡そ人の老するときは必らず三個の現象を生ず。

(一)回顧的の人となる
(二)新しく事を始むる能はず
(三)事を行ふ虚禮に流れば敏捷なる能はず

更に短き言を以て之を言表はせば老ひたりいふべき人の精神的の現象は(一)回顧なり(二)小膽なり(三)ホルマル(formal)虚禮なり彼の馬淵が馬に跨りて顧聘し猶用ふべきを示したるが如きは其身は老たり、而も其心は老ひずと謂つべきなり、又若したと　に漆黒の髪を載せ、其頬は桃花の如く紅なるも、其人にして此三個の特質を具せんか、我は此人の有望たる青年なるを信ずる能はざるなり。我は斯る人を目して老人なる青年若しくは青年の身に老人の首を戴きたる人なりと曰はんとす。國も亦一個人の如し、其國が長き歷史を有するが故に我は之を老たる國と云はざるなり、其國が老人のみ尊ばるゝが故に我は之を老たる國と云はざるなり、其國が近頃建てられたるが故に我は之を若き國なりと云はざるなり、只夫れ(一)回顧し、(二)小膽に(三)「ホルマル」なるの三種の現象備はらんには我は此國既に老たりと云はんと欲するなり。

乞ふ少しく之を詳論せしめよ

(一)回顧

少年は反顧せざるなり、彼等は前途に希望を有するなり、彼

等は今の有樣の爲めに生くる者に非るなり、彼等は勿論今日の活計いそがはしきとあり、はげしき生存競爭の戰爭を爲しつゝあるとあり、然れども彼等は今日の爲めに、今日働く者に非ず、皆蛟龍雲雨を得れば終に池中の物に非ず必らず未來に雄飛すべしてふ希望を有するなり。彼等は何も有たぬ時も唯一の希望を有するなり一劍瓢然天下に慢遊するときも彼等は胸中に未來の經綸をたくわふる也、國の將さに盛んならんとするや亦斯の如し、嘗て東照宮御遺訓なる者を見るに、德川家康猶參州に在りしときのとを記して曰く

三州にて五日斗に城近所に出ければ百姓共田を植、中に勝れて色白き男有近々と寄て見れば田の畔に棒を立、此棒に蓑笠を掛其中に刀脇差を結付たり不審に思ひ彌近寄能々見れば家人の近藤なり、人を遣し呼ければ近藤空きかずして返事せず使の侍に手を取て參候へと申時使の侍彼田の中入時、近藤使の者に申は待給へ手水をつかひ參べしとて貌をあらひ、大小を差我前に出る其時予近藤に申は扨々汝が働是非に不及事也我小身にてはかく敷心付をりがたき故知行取身にて左樣の賤敷業をさせ候事無是非事也と泪を流候へば近藤も泪を流したり、此近藤はケ樣に不似合事迄かせぎ尤朝夕の衣食杯は極てかすかにして武具下人等身躰に迄、於武勇の度々の譽有忠臣深き者也云々

吾人は之を讀んで、德川氏の勃興せし所以、偶然に非るを感じたりき、蓋し三河を過ぎしものは其地勢の尋常にして覇者創業の國なりとは思はれざるとを認むべし、而して此に德川氏の勃興せし所以の者は何ぞや、固より天命の之を惠みし者なきにあらざるべしと雖も、其君臣か現在に甘んぜず所謂嘗膽臥薪の苦に堪へて將來に爲す所あらんとする雄心溢るゝ所ありしが爲に非ずや。

又見よ當時英雄分爭の時に際して亡びし國は上杉細川山名三好大內、六角北畠等の舊諸侯にして屈起せしものは織田、伊勢、德川、長尾、毛利等の新諸侯なる哉是果して何に因るか、一は土地小兵寡しと雖も有爲の氣おさゆべからざる者あり。氣象善き時、百事善く、奇計出で奇策行はれ奮然猛然江河の決するが如きものあり、他は土地廣く兵多しと雖も、只舊を失はざらんを計り拓境、進擊の精神に乏しく

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

先づ氣を以ての故に一着を新進の國に輸せしが爲に非るを得んや、

戰國英雄割據の勢以て今日にたとふべし。たとへば五大洋の覇權を掌にしぬると誇稱せる英國民をして我事足りとなし、其有爲の精神をして頓挫せしめよ、其鷹の如き眼をして少しく曇らしめよ。余は終にロンドン橋破れてテームス河岸蘆花白く古を忍詩人をして、尙是此處が世界の都なりきと浩歎せしむる日あるを知るなり、たとへば魯國をしてペートル大帝の遺策なりとか聞へたる、南下東侵の大策を廢せしめよ。魯國の國民をして其世界を一にせんとする大望を謳歌するとなからしめよ、吾ピートルスボルグにピーダア大帝の像苔に沒するの日あるを恐るゝなり。

是故に我は國に兵備なきを憂へざるに非ず、國に學校なきを憂へざるに非ず、國に文明の利器なきを憂へざるにあらずと雖も、更に深く國民に現在に甘んぜざる大希望なきを患ふる也、國民の回顧的ならんとを憂ふる也、國民の老せんとを憂ふる也。

三千年來一系の帝統と此一系の帝統に忠愛なりし臣民とは我の萬國に對して誇るべき者なり、櫻の旭日に香ふ如き大和魂勇武義俠なる日本男兒、婀娜優美なる日本貴女、固より誇るべき者なり。內村先生の曰ひしが如き富士の山も櫻の花も菊の花も誇るべき者なり。源氏狹衣より西鶴其磧に至るまでの小說も、菅原の道眞より梁川星巖に至るまでの詩文も固より誇るべき者なり。此點に於ては我は國粹保存論者に同意なり否國粹保存論者なり。然れども記せよ斯の如き先祖斯の如き遺産を有しながら。東海の濱徒らに武陵桃源の夢をむさぼりて世界の史上に於て何の爲す所なくんば吾人は我祖先に對し我遺産に對するに何の面目あらんや。

宜しく張膽宏量、世界に雄飛するを以て自ら任ずべき也、宜しく大希望を國民の腦中に吹込むべきなり。

（二）小膽

水あり先づ泳ぐ者は少年なり木あり先づ上る者は少年なり。かくすれば、かくなる者と知りながら止むに止まれぬ大和魂と歌ひつゝ嘉永年間豆州の下田、月黑く波怒りし夜、米艦に投じて海外萬里の破天荒の遠遊を試みんとせしは當時の少年二十一回猛士、吉田虎二郎なり、國も亦斯の如し其若き時、

其有爲の氣に富めるに方りてや、大膽なり、冒險なり、自由あり。其老ゆるに及んでや小膽なり。齷齪するなり。

マコレー先生嘗てフレデリッキ大王の政畧を論じて曰く彼は人民に自由の言論を許せり、思ふまゝに言はしめたり、何となれば、彼は民間に如何なる激論あるにもせよ、彼の整々乎たる兵備を以て之を壓するに足れりと信じたればなり、と嗚呼區々たる普朗士を以て終に歐洲大陸に雄飛するに至りしもの此大膽あるに因るなり。

夫れ小膽なる人は些細なることに動かさるゝなり。つまらなきことを恐怖するなり。聞流しにして足り見流しにして足りぬべき新聞紙の論説にも彼等は太だ神經をいためらるゝなり。彼等は已に異なる物を容忍する能はざる也。

淸の康熙帝は英雄の主なり。或人言して曰く宜しく佛寺を破毀すべしと然るに帝は聽かずして宣へり朕晝閤中に於て伽藍堂塔を見る亦た風流なり之を存し置くも亦可ならずやと、英雄胸次の廣き斯の如し。宜なり文物の隆盛前古に比なきや。

我國運をして盛らしめんとせば亦宜しく大膽斯の如くなるべきのみ其量を大にして何物をも容忍すべきのみ、何者をも包轄すべきのみ。

卑怯なる犬は人を見れば直ちに吠へ、卑怯なる人民は己に異なる者を見れば直ちに斥けて容るゝ能はず、妄りに外國人を忌み、外國の文物を斥くるが如きはたゞ〳〵以て其小膽を自白するのみ。

夫れ外國に對して寬容の量なき國民は其國民の個人同志も亦相互に寬容の量あきなり是を以て人只人の指目を恐れ新創の見ありと雖も曰はず爲さんと欲するとありとも爲さず、英才徒らに懶死して舊相徒に昌ふ國衰へざらんとするも得んや。

今の日本人は寬容の量ある乎、小事に神經を勞せざる乎、怒り易からざる乎、鬪ひ易からざる乎、吾人は之を思ふ毎に我同志の人に猛省を乞はざるを得ざるなり。

天下若し小膽に流れば吾人は逆流的の人たらざるを得ざるなり斯の如くならずんば以て終に國運をして蹶しむべきのみ。

（三）ホーマル

孔子曰く先進於禮樂野人也、後進於禮樂君子也、如用之、則吾從先進　此一言孔子の英雄漢にして後世の腐儒に類せざるを見るに足れり。夫れ人の老し若くは精神的に老するや必

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ず區々たる小禮細儀に心を用ふると多くなり行くなり。我皆て僧を相する秘訣を聞く曰く

紙ぎぬにゑもんつくろう程の者はふかく人にてありける

夫れ人に一大精神あらば必しも拘々焉禮法に泥むとなかるべきなり所謂白頭爛醉東呉市、自拔ニ長劔一切ニ疑肩一、なるもの四十の壯士、氣力盛なるもの勢此の如くなるべきなり。國も亦斯の如し古語に曰はずや百年にして禮樂起ると禮法の八ケ間敷なるは即ち國の老ひたる徵候なり。

誤解すると勿れ、吾人は必しも無禮、無法を以て崇ぶべしとする者に非るなり。我國が無禮講の國であれかしと願ふ者に非る也。然れども少年にして大人の眞似をなす者あらは我は之を哀しまん。創業の國民、未來に爲すあるべき國民、世界に智識を求むべき國民にして徒らに禮法を以て相互を覊縛せんとするに至ては、吾人は之を哀しまざるを得ざるなり。

春江水暖鴨先和天下の形勢は微かなるものにも顯るゝと猶流る藻の方向にて水の行く所を知るべきが如し、吾人は近來の文學界にてにをは文典の八ケ間敷とを以て、小中村落合諸先生の論說か歡迎せらるゝとを以て、世は早や既に規則の世とならんとするを認め、恰も天津橋上杜鵑を聞くの思ありき。夫れ文學者と雖も天上の人に非ず、文學と雖も時勢の感化を免るゝ者に非ずとすれば、文法學の漸く世に歡迎せられ、大醇大疵、豪傑的、放膽的の文字が漸く世に容れざるは即ち社會が次第にコセ付かんとするとを證する者にあらざるなきを得んや。

天下の勢定らざるは固より不可なり、然も少く定るは定まらざるの勝るに如かざるなり。大器は晚成す、大に爲すあらんとするの國は少く固まるべからざる也。

我は束髮に必しも美風ありと曰はず、我は握手の禮に必しも妙なりとは云はず、然れども束髮何の罪あれば堂々たる教育家にさへ攻めらる乎。握手の禮何の罪あれば新聞記者にすら笑はらる乎。只夫れ舊慣に叛くが爲めなりと曰はゞ我は我國民も亦「ホーセル」に流れたり、即ち老たりと曰ふべきのみ。

我國老ひしか、我之を知らざるなり、我國は青年の勇氣と健康とを有する乎。我之を知らざるなり、只老たるの徵候ありと思ふ耳。我其誤認であらむとを願ふなり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小說

蓮華草（下）

ひさご

「松並木のはづれに、しばしと腰打かけ、車に燈の用意さする折しも、あなたよりきたる人かげ、五六人、風聲鶴唳とはかゝる時をやいふならん、すた／＼と立よりて、

「だれダ、そこにゐるのは、だれダ

足場をはかつて見すかす書生風の男、手毎に太き洋杖を持ておそる／＼にらまへたてり、中なる一人近付てよく／＼見

書生「ナーンダ女ダ、旅の人ダ、あぶないヨ、こゝにゐると、今に合戰がはじまるかもしれんぞ

といひ捨てあしばやに立去りしが、遙に聞ゆる聲高く、

「人觸れば人を斬り、馬觸れば馬を斬、力かぎりにやつゝけろ

此方の二人は心安からぬに、車夫もおそれを生じて、ともしびをともし、さきに立て

車「この頃は毎日のやうに喧嘩流行、なんでも今のやつらア、瀧口といふも、とやつぱり議員さんをした奴をぶつといつてさわいてゐるにちげへありません、この頃じやア車夫仲間もあんな風をしてさわぎまはるので、風儀がはるくなつて、わけへ者はいけません

とかたりつゝ行、むかふより又二三人の人かげ、近づくまゝに奥方はさしよつて、

貞「ヲヤ旦那樣じやアムいませんか

瀧「ヤーお貞か、松もどうしてきた

貞「御文を見てから宅にジッとして居ますのも氣がすまず、どうぞ御傍にゐて、御樣子も見たく、おつか樣にかきおきをして、里の母もよびよせ、坊の守りもしてもらうつもりで、松と出かけてまゐりました、毎日のやうに暗殺だの狙撃だのと申事のある中で、ようまア

とうるむ辭に、松もさしよりて

松「そんな事はともかく、なんだか壯士がこゝいらをまご／＼として居升やうで

貞「ほんにさつきこゝの前をとほり升した

甲書生「じやアもう先生の御出けをどつかでしつたと見升、あやふきをしつて近よるは君子の爲ざる處、先生かへりませう

瀧「イヤ君達がかうして守護してくれるから大丈夫だらう、切角撰擧人等が前いはひの祝宴をひらきたいと招いてくれた

に行かないのは殘念ダ、もう直そこなのに

生「やア、むかふから、なんだかくろいものがくるが、きたんじやァありませんか

松「チ、あれにちがい有ません、チヤ人數がふへた樣です

奥「じやァから遊ばしませ、この荷ののせてある車へおのり遊ばして、どなたか御二人の中御一人失禮ながら後押のつもりかなにかで、御一所にいらつしやつていたゞいて、旦那樣はこの肩掛を御貸し申しますからの御頭から御かぶり遊ばしていらつしやいまし其外套はこちらへ御ぬぎ遊ばして

あなたにははやこの人數を見とめて、瀧口がきたぞ逃がすな〱といふ聲するに、引つゞいてうち出す空砲の音貞子はたゆたふ夫を松子とともに車にのせ、とく〱と一人の書生つけてその方へむけてすゝませぬ、かなたより走くる四五人の壯士この車と見るよりなんだ〱と立よるを先の一人おしへだて「さつきやすんでゐよつた女がかへるのやらう、おけ〱とて又かけきたる、貞子は夫のぬぎおきし外套に身をまとひて殘りし書生に導びかれ夫が宿所へ靜々とあしをむくるを早くもかの壯士見とめ

「瀧口まてと一さんに力をこめてふりあぐる杖ひらめかしてうつてかゝる力自慢の棒打度新吾此方の書生後へまわり、手ばやく兩手に羽がひじめ、おくれて走つく發砲圖鈍太、護身用の小形のピストルさし出すをお松が早速の砂つぶて、いつかうしろにうかゞひよる佛垂八足瀧口うぬといひさまに引倒さんと手をかくる外套スルりと身をはづれ力あまりて後ざま圖轉倒とぞこけにける、音におどろき見かへる壯士等貞子は其まゝイみて莞爾と笑ひし景高かさに柏子ぬけたる折しもあれ、あなたの方に絃歌湧きて某樓上の奥二階瀧口君萬歳〱とさびしきよ半の松風につれてぞこゝに聞へける

かくて瀧口、貞子が策、松が盡力、其圖にあたり、打傷一つだになく當撰し國會開會の日を我家にかへりて待くらす、ある日かの五つになるおさな子、近隣の子供等驅催して庭口に集り手に手をとり

「ひーらいた〱、なんの花がひーらいた蓮花の花ひーらいた、ひーらいたとおもつたら、やつとこさつとつぼんだ

此方の椽に夫婦嘆息して、此度の事、げにかの子供遊びに異ならず、紅をながし貴重の命を的として分別さだまらぬ少年の

輩おもしろづくに金づくに人をうち、人をたゝくを愉快とよびわが何の爲に働くやもしらざるが多こそうれしけれ。この愉快てふ心はいまだ封建制度行なはれざる頃の我國の習慣勢力の存する弊なめり、とく腕力によらず、腦力をたのみ、利きつるぎ、するどき鎗をたのまでわが精神の鍛練をこそ願はしけれ、正義てふ楯あるとしらで、ひたすらにめにみゆる力にたのみをかけ、けがにもあるらめど、鬼とも蛇ともたとへつべき人々の棍棒の下などに命をおとし、人、一人まれ二人まれありしなど聞ぞ身うちもふるふ斗にかなしうもあはれにもおもはる、この頃我國の人氣、又あらく成もてこしやうにて街に遊ぶ子供等の遊びも棒打振てうちたゝき遣付ろとかいふ歌流行して、口々にうたふ、この歌の意決して泰平の兆ならず、かまへて親たるべきもの、我子等の口に、かゝる不祥の候のうた、のぼすべからざるなり、さるにてもかの今うたふ蓮華花一度つぼみしが又この春待て開らかんとす、あだなる嵐の吹立る事なく世の中やすくあらまほしとかたりあひぬとぞ。

次號より若松しづ子譯、新しき兒鑑をかゝぐ

文學

元祿時代の韻文　並作者自評

（上）　無名氏

流行といふものこそ烏滸なりけれ蓱のよるべなき世に飄く飄としてあちらこちらにさまよふ。かの明治文壇の風雅まさに盛ならむとするや韻文といふもの新體詩といふもの何時となくおこり來りしが元祿のむかしすでに「本朝詠詩」の實を擧げたるものありて而もその風韻の俳調にうかれ幽玄雋永の妙を具へたるもの多し。あはれ流行の風潮に漂ひ韻文の蓱となれるもの曷ぞ之を轉じて百代不易の地に廻らさゞるや曷ぞ之を引て一世の風雅を頌揚せざるや。こゝにいさゝか其便ともならむかとて美濃派の韻文なるものを示すといふ。

大和聯句の序に曰く「詩歌者。夫風雅之花。而所謂詩變而爲騷騷變而爲詞皆可歌㒵。則詩與歌者。從音訓之違。永詩了則曰作居。永歌了則曰訓歷。總者道之優遊。而遊俗談笑語。共不忘意之風雅也焉」とあり又は詠詩序に曰

く「律詩の法とても總て作者の才覺を以て永く假名の詩の風躰を起さず今日の人は明日の師となり明日の詩は百世の文鑑ならむ。されば本朝の詩の元祖たらむには先は詩門の倣古擬古を學びて古詩の風躰に效へるより次には和漢の通情をあらはして漢土の詩人には東坡山谷が風を慕ひ本朝の文者には菅家源順の名を思はざらむや」といへり以元祿時代の韻文家が着想のいかむを見に足べし

叶韻

あかさたなはまやらわ
いきしちにひみいりゐ
うくすつぬふむゆるう
ゑけせてねへめえれゑ
おこそとのほもよろを

擬古

花　五言四季のうち　　支考

君見よや春と秋と▲
花さけば葉おつとよ▲
葉はおちばはくべきに
花になやむわがこゝろ▲

狂云花の一章は名利の感じ左れば人間の世にありて利欲は一世の凡俗なるを知り名欲は千歳の君子なるを見れば利葉は兎も角も掃きすつべきに名花には人を脳亂すと飛花落葉の四季を含めたる語意さらに分明之然れば其葉を利に喩へ其花を名に喩へて兼ては酒色の兩欲など花に喩ふるは的面ならむ或は三四の句に至りて花葉の二字を重ねたる或は疊語の格にも似たれど是は本注の法にして古詩の躰には此格あり或は君看の二字は歌行の常語にして世間一等の人を指す詞之或は花に惱むとは江上被花惱など杜公が詩の詞より靜心なく花の散らむとも絶へて櫻のなかりせばとも詩歌の人の情を汲みて花に狂へる歎息なり

茶　七言　　桃花仙

梅はたま〱詩に忘れけむ▲
茶はなにとてか歌によまれぬ▲
雨にさびしき俳諧を聞て
豆煎る宿に音をのみぞなく▲

狂云茶の一章は俳諧の趣向より和漢の詩歌を取合せて楚辭はたま〱なれば梅をも忘けむ何とて朝夕に翫ぶ歌に讀れぬは茶の遺恨ならむ去ど我家の俳諧は詩歌に肩を雙べがたく煎豆の會には音を泣らむと例に虛實の文法より例に俳諧の筆格之

雜録

印度女子改革者 スーンデルバイ、パワー

"To a noble conflict
Calls the LORD His host,
Rally, Christian soldiers!
Be His strength your boast;
Asia's sons are dying,
Pierced by Britain's hand;
Blood to GOD is crying,
Can we listless stand?
Courage, Christian soldiers!
On in GOD's own might;
Forward move His banners;
Victory for right!
Bane instead of blessing
Britain pours to-day,
Over India's millions,
Under Britain's sway;
China's countless myriads
Hate the name we bear;
Deep the wrong inflicted;
Deep the shame we share.
Shall the wrong continue?
Shall the curse be spread?
Further guilt be added
To our guilty head?
GOD forbid! we muster
At His call to-day;
For our country's honour,
Now His voice obey.
For Salvation's message,
That its way may be,
Glorious in its triumphs,
Setting millions free,
By our sin no longer
Hindered in its flow,
Forward into battle,
Christian soldiers go!"

印度の女傑スーンデルバイ、パワーはかの「プーナ」なるラマバイ女史に代りてひとり幾百里の海路をたどり英國の天地におもむきて印度の同胞が鴉片のためにくるしめる慘狀をあきらかにしたりき噫誰か女史の丹誠を仰ぎ瞻て亞細亞のために暗涙を灑ぎけむものぞ

西曆千八百九十一年十月六日スーンデルバイ同胞のために將に英國におもむかんとす乃ち「ラクノー」の同志相あつまり別離の宴をひらきけり何某印度の女子これを送りて曰く

人として印度に生るゝことなかれ妻として印度に嫁ぐことなかれ。噫こう／＼たる昊天その命を純にせざるか其德を駿にせざるか。あんぞ吾同胞を照したまはざることの酷しきや。いにしへより筆端萬行の涙を揮ひしもの多し左はあれど誰かわれらの悲哀を畫き得べけむ。天が下かなしめる女子はなはだ多し左はあれど奈邊にかわれらに肖たるものあらむ。百姓離散の景象はおろかや室家流亡の景象はおろかや百萬の蒼生今日一日の食にとぼしくろう／＼てん／＼として「ガンヂス」の水の音さへ悲しやな。起きあがり伏しまろぶ哀傷慘憺のこゑ／＼をかの英國官吏は何と聽きけむ。噫いまよりのち英人なほも罌粟の畠を燒き捨てむとあらば須く西のはてなる兵卒を貰してわが鴉片漢の妻と子とを殺さむこそよけれ。あはれ二とぞなき生命にかゆるとも誰かこのくるしみを忍びてむやとぞ、

英人が印度に對して鴉片の利を弄びこれによりてその國の元氣を沮喪せしめたること予が筆の上のあげつらひを待つものあらむや。そのはづべき罪過たることは天下の公認するところなりけり。あはれむべき印度人は、英人

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の虐待を蒙ること世の常にあらずまことにその愁や深くして其悲や切なり。天こゝにおいて雄心悲歌の一女子を起し其かよわきうまれに絶世の偉任を托す。かの蕭々としてさむき易水のむかしならでスーンデルバイの一び亡國の野におこり深く基督教を信仰して遂に千里の波濤を破り倫敦都門に「ガンヂス」河畔の故山を弔ふこと豈に偶然の至りならむや

かう／＼たる倫敦都門の瓊堂瑤室いづれか東方孤客の慨をひかざる。その玉の臺のひかりいよ／＼かゞやけるは吾故山の細民のいろいよ／＼著きしるしなりけり。スーンデルバイの胸中あに無限の感憤なくして可ならむや。乃ち英人につげて曰く

英國政府が得まくほりするところのものは黄金なるのみ。われらは好で身につける財産所有を與ふべけむ。行て政府に告げよわれらに家あり所有あり政府もしこれを得まくほりせば意のまゝに之をとれ。然れども鴉片貿易の一事にいたりては斷じて默視すべきところにあらざるなりと。噫みづから基督教國なりと標榜するところのものにしてかの惡むべき貿易をとゞめざるのみか反て直接に之を勵ますが如きこれ悲しむべき事實にあらずや。これ英國人民の面目をけがすところのものにあらずや。これ基督教徒の責任をけがすところのものにあらずや。嗚呼蕩々たる上帝これを默視し給ふべきか。けふにおいて英人われらを塗炭のくるしみに救はゞわれらは肉身の皮膚をそぎて英人のために其靴を作らなむとぞ

"From Asia's dying millions,
There comes a call to-day;
Let every man, true hearted,
That clarion could obey;
The voice of God is in it—
"Let myriad homes be freed
From Opium's curse, inflicted
By Britain's shameful greed."

By righteousness and justice,
This wrong shall be redressed,
And Britain's name no longer
Be shamed by men oppressed,
By scalding tears of women,
By broken-hearted shed,
O'er buried hopes and blasted;
By children's cries for bread.

Arise! ye sons of freemen,
To break the tyrant yoke;
To strengthen for the conflict,
God's blessing now invoke;
To clamorous claims of party
No traitorous heed be given;
For God and justice only,
Till Asia's chain be riven.

Dawns then a glorious morning,
When Asia's wrong is past;
Hearts opened to the Gospel,
Confess the Christ at last;
The stain of blood is taken
From Britain's guilty hand,
And pentecostal blessing
Rolls now from land to land!"

京城の雪の朝（其二）

蔵日生

我友の書繰返す音かと聞けば、窓撲つ雪の聲にてありぬ、聡き鼠の物竊む状かと想へば、風の吹きしきりて、窓外の聲、稍高く揚れるなりき、

過る日の曉の眺望に、詩を尋ねたる天地は、既に舊觀を改めたり、「白雪紛々何所レ似」粧はざるに粉散じ、樹無くして花飄る、「撒二塩空中一差可レ擬」、雍熙の風少しく缺く、「未レ若柳絮因レ風起」あゝ「誰將二塵世一化二珠玉一、好爲二貧家一聚二米塩一」豊年の瑞とて悦ぶ者もあらんが、「今朝見れば八重ともわかず葦葺の、こやの夜の間にふれる白雪」と歎んものもありぬべし、

一條の壕の流は、漣揚げて岸を洗へり、石垣の水に交る處、一髮の間を殘して、躍れる白龍の胸かと疑はる、偃したる松の流に臨むは、額白き猛き乳虎の、蘢背に臥して嘯くが如く、鉤に似たる磨きし爪の風を生じて水を打つ處、七八羽の寒鳥逃るが如くに泳ぎ去りぬ、」餘りの面白さに、窓を排して、眺めんとすれば、帷、飄りて、千重の六葉、片々砕け、顔冷かになりて堪へられず、再び鎖せば、戸外に推し殘こされし推雪は、幼き時戯に築ぎて、面白かりし砲臺の如く、凍へたる雀の素て痕付けし轍に躍るは、昔弓持ちて鳥追し我の記憶を恢復せしむるわざなりし、

郷校の村夫子が、斯くの如く降り積りし雪の中に、己が顔壓し埋めで、型を寫し、欣び躍れる幼兒等を慰めたりし樣を見て、我も試みんものをと、高足駄に玉を蹴つゝ、踞りて遣り損じ、三尺にも足らぬ身の長[illegible]りしこともありしが、又た思ひ付きて硯取り出で、何時も草紙になぐり書きする、軸太き禿筆持來り、此白紙に、、、、、一筆啓上仕らんと、墨落しゝも功は無く、悔しまぎれに筆投げ捨て、水斗の水、皆までも濁らせば、じわ／＼と消行くに心付き、初めより斯くなさば、思ふ儘の形就りたらんにはと、發明したる事もありしが、昨日と云ひ、今日と過ぎ早既に十年の昔とはなりぬ、

山家の風致は心を養ひ、悠々太平の夢に飽きし、世の樣知らぬ若き我には、袁安先生の高臥も學べば、之より忙しき風潮に乗じて、此趣我に與へし彼蒼の爲に盡さん、我心明々地に告白せば、此國此民の眞の心が此雪よりも尚白からん日の來れよかしとの願耳、只だ此願耳、

一陣風怒る、心動きて城頭を望めば、さら〳〵として落つ三百年の松の雪、

跋

筆擱きて讀一番す、奇もなく、妙もなし、愛山兄に比して遜色數十等、彼は天地を方寸に疊み込みて、人情の温き旨、筆尖に溢る此は小さき蟲の音して昔譚に餘念もなし及ばず〳〵、面赤めん業なさんよりは、此ペーヂ裂き捨てんか、文章小技耳、本領には非ず〳〵と澄まし込みて、ものする者は北遠の學生蔽日也、

批評

○伽羅枕及び新葉末集

（其 二）　透谷

伽羅枕を讀みたらむ人は必らず佐太夫なる魔女の終始一回も盲目的戀愛に陷らざるを認むるなる可し。十五にして苦海に墮ち、それより浮沈隆替の跡は種々に異なれども要するに色を賣る歷史のみにして戀を談ずる者にあらず。作者が霜頭翁のみを撰みて渠に配せしも恐らくは渠をして沒戀愛修行を爲さしめんとの心ろにてやあるべし。三枚橋邊にて高貴の內政たる異母姉に面したる時の感慨は女性らしき思想を一變して、あはれわれも女に生れ出たる上は三千世界の遊冶郎を蕩かし盡さんとの大勇猛を起さしめたり。

女性はどこまでも女性らしく寫すを可とす、どこまでも自然に應ふを以て寫實主義の本色とすなる可し。若し强て女性を男子らしくし、女性にあるまじき大勇猛を起さしめ、然も一點己れの本心を着けず、賣色といふことのみの大技倆を以て、一種の女豪傑を寫さんとするはむかし元祿時代の河原乞兒がべらんめい言葉の景時を扮し、後紐位にて忠義の爲に割腹するなどの不自然と同一轍に陷る可し。江戶の色海に沈みてよりの佐太夫と霜頭疎齒の老翁に侍せし佐太夫と全く別人の如くなりしも、作者の意匠の寫實的あらず、一女性の境遇を眞直に寫すにあらずして、寧ろ主觀的に斯の如き女豪傑ありたらば面白しと理想したる結果なりけむ。

理想の女豪なる佐太夫は如何なる特美をか有する。曰く粹七分俠三分なり。粹は遊廓內の大菩薩なり、いにしへより元

錄派は文士の本尊佛は則ち是なり、俠も亦た遊廓内に何權理とか名の付く可き者なり。而して紅葉は實に如是妙法の功力を說法せんとの意ありしや否やは兎に角佐太夫なる人物は宛然たる粹の女王なり。紅葉の說明せんと企てたるは粹の粹の其奧に入りたる玄妙不思議なるところは如何なる可きといふ問題にてやあらむ。

佐太夫は天晴粹の女王あり。然れども余は佐太夫を得て明治文學の爲に泣かざるを得ず。明治文學をして再び元錄文學の如くに遊廓内の理想に屈從せしむるの恥辱を受けしめんとするを悲しまざるを得ず。黄表紙も可なり道行も可なり、其形式を保存するは尙ほ忍ぶ可し、想髓を學び理想を習ふに至つては余輩明治文學を思ふ者をして轉慨歎に堪へざらしむ。そも粹と呼ばるゝ者いかなる性質より成れるか、そも賣色女の境遇より如何なる自然の心を讀み得るか。われ多言するに勝へざるなり。元錄文學の品質如何は他日詳論すべき心算あるに爰には之を言はず。唯だ余は明治の大家なる紅葉が不自然なる女豪を寫し出して戀愛道以外に好色道を敎へたるを憾む事限りなし。

われは風流佛及び一口劔を愛讀す。常に謂へらく此二書こそ露伴の作として不朽なる可けれ。何が故に二書を愛讀する、曰く一種の沈痛深刻なる哲理の其中に存するあるを見ればなり。今や二書に慣れたる眼を轉じて辻浄瑠理を見るに、恰も深山に入りたる後に塵飄の小都會に出るが如き感あり。灼々たる野花を見ず。磊々たる危巖を見ず。森鬱たる幽澤を見ず。一奇男兒なる道也其粉飾を脫し去れば凡々たる遊冶郎。所謂心機靈活なる者も左したる靈活にはあらざるなり。われは理想詩人なる靈伴が寫實作者の領界に闖入して却つて烏の眞似をすると言はれんより、其奇想を養ひ其哲理を練り、あはれ大光明を發ちて凡惱の衆生を濟度せられん事を願ふて止まざるなり。

○白玉蘭（美妙著）　透谷

正直と奸猾とが相戰ひ不義と正義とが相爭ふなど皆是れ小說家の好材料なり。社界なる怪物は恒に正義に伍せず恒に正直を護らず別に運命なる者の存するありて玄々不識の界に人生を支配す。澄淸なる悟性を有する者にあらざるよりは運命に安んじ危機に驚かぬこと能はず。蓋し變幻極りなき人心の

歸向するところ皆な社界なる怪物に席卷せられて、人さま〴〵の運命に陷る者なり。而して逆境にある時に世を恨み、人を詛れ、淺薄なる不平となり、偏曲なる性情に變ずるは俗界の常なり、唯だ特に憫むべきは身逆境にありて、なほ正路を失はず一片愚直の精神能く透徹する者にこそ。われ世の壯士なる者を睹るに自ら甘んじて機械となり、人の爲に己れを機械にする義俠心は兎に角、己れの不明なる野心より己れを其野心の機械にする者の多々あるを知んぬ。不抜不撓の犧牲的義俠よりはわが胸中の空想なる義俠と呼ぶ迷像の跡を追ふ者なるに似たり。然るに今や美妙子の取つて主人公とせられたる壯士は己れの立脚の地は甚だ安からず、已れの社界に遇せらるゝ運の極めて淺きにも拘はらず、己れの性質の涙脆くして小膽なるにも拘はらず、恩を思ひ義を重んじ一徹愚直の判斷力もて不正を飽くまで不義とし、之れが爲めには遂ひに自からの心に言ふ可からざる暗愁を生じて最後は鐵道往生。今日の社界のみ斯般の性質を有てる者を冷遇するにあらず、到底愚直の末は頑迷となるか然らざれば斯かる不出來の生涯を送るかにて之を社界の罪と言ふ可きか將に古來の大作家が想像しける樣に大惡魔の機關より出づる毒業と呼ぶべきか。板ばさみと云ふ事作家の虎の卷にてやあらむ此作中にも源介が妹を思ふ切なき情仲々に面白し。全篇の脚色は平坦にして或所には餘りに精密餘りに說明的なるやと思はるゝ事あり、是れ美妙齋が人物の性質を巧に穿つ所以なりとも辨護すべきか斯ては看客の想像に訴ふる所少なかるべし。又た第一回の中に二三禁句の見へたるは御注意を願ひたく、最後の悲劇に親父までを出すは餘りに戲曲的に見へて面白からず。總じて此作の長所は自然なる所にありて存す、說明的の妙に入りたる所に存す、巧に不自然なる搆設を以て讀者の好奇心に投ぜんと志す作者の著書よりも遙に有難し。

○經國

曩に「經綸」あり。今ま「經國」あり。彼は自由黨員より出で、此は保守黨員より出づ。要するに經綸經國の事、今や邦人の漸やく着目する所ろとなり、早や朝作暮改の小作工に嫌たらぬ時世となりぬ。扨て、鳥尾小彌太、原田一道、堀口芳介、等諸氏の祝祠を荷ふて今ま生れ出でし此の「經國」は、其の發行の主旨、經國の策果して如何、此國家を如何せん、の三篇

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

中、初號の故なればか、絕て一經綸を明畫するを見ず左れど追々に之を聞くとならんとて、待つ。

○菅原道眞

多望少年の文士愛山生。近ごろ菅家文章を、讀み結んで曰く我頃ろ菅家文章を借讀し、時代の弊習が火山の灰の如く英才を埋め了せしを歎じ、又文は眞に人を表はすものなれば文家先づ己の識見を長じ、品性を養ふべきを切に感ぜしが爲に覺へず長論此に及べりと。此種の自省極めて佳なり。吾人も亦た今の文士の爲に冀望せざるを得ず。小楠先生云く、道眞は大臣たらんには、餘り多才多藝なり。と才は決して事を爲す最上の力にはあらず。

○孝謙天皇

史海第九卷に、孝謙天皇の論の續きあり、遂に斷案して云く孝謙は温厚にして万機を人に委ね玉ひし女王なりきと。ミルが女帝の功勳を證せしと一般、頗ぶる吾黨の喜こぶ所ろなり終末、我國、國家革命の際、常に邦人人情の顯はるゝを見るの一節は、尤とも注意すべし、作者が用意も亦大ひに此處ろに存するとを知るなり。

孤兒之友

孤兒の友設欄の趣意　藤井米八郎

世に孤兒ある以上は、必ず又之が慈育の人なかるべからず、孤兒敎育の爲め、任じて其身を献ぐる人の出でざる時代には、乞食盜兒多からざるとなし。

數年前余は近縣に耕牧せり、自作の玉蜀黍を食し居ると一兩年獨り熟々思へらく、我一生を擧て人世最大不幸者なる孤兒の友たらんと、而して皇天未だ之を許し給はざる乎、事故ありて果すと能はず。

惟みるに、孤兒救育の事業は單に衣食を給して養成するのみにはあらず、實に之を敎育するにあるなり、而して敎育の至難なる、己が最愛の一子すらも導き難くして往々不善の徒となす者多し、況や他親の孤兒を敎育するに於てをや、此至難至重なる事業を、皇天猥りに豈に余等に聖命を垂れ給ふべけんや、嗚呼余自ら神の前に孤兒たり、自ら顧みて、號泣し、祈禱し、修養鍛錬の必要に感ぜり。

何の機會か、皇天余を呼び給へり、余は之に應じて、學年十

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一月上旬に、愛岐の震災地に至り、本年一月上旬に及ぶ迄多少孤兒救濟の爲めに働きたり、今や岡山、播磨、北海道の他、更に名古屋に震災孤兒院起り、東京に孤女學院起てり、余が一身之に投ぜんと欲ずるも事情許さず、是れ余が資格備はらざるの故なり。即ち未だ余が出でゝ働くべき時にあらざるの故ならん。然れども余は假令全く身を捧ぐる能はざるも、今日の分限に止まりて、成し得べきだけは、胸中一片の信仰を以て聖命を享け、孤兒の爲めに働かんと欲す。乃ち本紙上に孤兒の友を設くる所以なり。

○孤兒の友の仕事

（一）孤兒院は、天父の祝福の下に、多く慈善家博愛者の寄附にて成立ものにして、決して金錢物品を人に求めざるの精神なるとを知る然れども喜んで義捐する人の便宜の爲に此孤兒の友は其取次をなさんとす。

（二）東京横濱市內に、金錢物品を喜捨せんとせらるゝ方にして遞送の煩勞なる爲、其志を果さゞる向は孤兒の友へ通知あれ、然らバ孤兒の友は、寄附者指定の孤兒院へ贈り届くべし。

（三）遠方の孤兒院へ多量の物品を寄贈する事は、多額の運賃を要するが故孤兒の友は悉とく之を辨じ得ざるともあれど、此準備金の有らん限りは之を辨ぜんとす。

女學雜誌社內孤兒の友

●三月十二日迄に孤兒の友の取次ぎたる寄附金物品の第一回報告

金拾圓也	横濱無名氏	孤女學院へ寄附
金四拾五圓	山梨慈善會	同
金四拾五圓	同	名古屋震災孤兒院へ寄附金
金九錢	無名氏	孤女學院へ寄附金
金五拾錢	川合まさ子氏	同
金五拾錢	同	名古屋震災孤兒院へ寄附金
金壹圓	無名氏	曉星園へ寄附
金拾三錢	同	孤女學院へ寄附
金拾圓也	横濱無名氏	同
合計金百拾貳圓貳拾貳錢		
博多男帯一本	湯淺武之助氏	曉星へ寄附
女衣類三枚	横濱無名氏	同
同取合十點	同	孤女學院へ寄附

●孤兒の友會計第一回報告

●入之部

金壹圓	無名氏	孤兒の友準備の內へ
金三拾二錢五厘	同	同
準備付合計金壹圓三拾二錢五厘		

●出之部

金三拾六錢	山梨慈善會より震災孤兒院へ寄附送金費
金四錢	震災孤兒院兩度郵便税
金貳錢	山梨慈善會へ郵税
金三拾六錢	孤女學院保母の件に付五度の人力代
金三錢	右件に付端書三枚
金拾三錢	博愛社へ種物十種寄附代
金四錢	右郵便税
金四錢	横濱無名氏寄付品配達料
金貳錢	震災孤兒院へ川合氏送金費
金計金壹圓〇四錢	

金二拾八錢五厘

時事

○副島伯

近日の大快事は、蒼海の老龍、副島伯を閣上に見るに到りたるの政變とす。而して、今日すでに聞く、北海道に對する内治の策裁然として改まらんと。蓋し必らずや此類の事あるべし。吾人刮目して待ん。望蜀の感一事あり、今の内閣更に一段開進して、何んぞ亦た彼の氷川の老先生を迎へざる。眞とに然ることを得ば、幸ひにして大ひに人目を新にすることを得んなり。

○院外と閣外

議院外に運動すべき、落第候補者の團躰は、能く院内に力を加ふ。閣外の幕裏に密むべき、代謝前大臣の影法師は、反つて閣内の肘を掣す。一は加へ、一は減ず。而して、本年に至り、院外の團躰いよ〳〵大きく、閣外の影法師亦ます〳〵殖えたり。我に不利を加えて、敵に利を加ふ。現内閣決して心配なきと能はず。

○保守風

本年に於ける保守風は果して強烈なることを得べき乎。議院内には、其黨員を加へたり、閣上にも其味方を得たり、九州に於ては、大勢を一變せしめたり。果して然らば本年に於ける保守の風は極めて激烈ならんか。曰く、否、斷じて然らず。國家全躰の勢すでに去れり、今は陽春三月、花王正は咲かんとするの季なり、冬風の來るすでに晩れたり、此の風果して能く何ものをか動かさん。

○無名保守黨

無名即はち眞名なり、ことに日本に於ける保守黨は、其名を揚げざるを以て妙とす。古來幾千年間の日本歴史を觀よ。日本人民は、保守黨にあらざる也。改進は其歴史的の氣質なり。保守の人にして、能く輿望に適ひたるものはあらず。然れども、保守は亦切要なり、日本國裏保守黨を欠く可らず、但だ此黨をして勢力あらしめんとせば、彼をして沈默（而して實行）せしむることを要す、ことに明治二十五年以后に於ける保守黨の運動は取分け然ることを要す。本年に入りて初めて旗幟を立んとする如きは、そも〳〵勢に通ぜざるもの也。吾人は鳥尾子を賢なりとす。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○我國會

露伴子の小説の題めきたるもの、折々新聞紙上に見ゆ、而してこれ政黨の卵なりと云ふ、卵の久しく孵らざるは、伊藤伯の居就の尙ほ決せざるが故なるべし。

○廢娼

近頃ろ、廢娼運動の正に熾んなるは、福島及び久留米とす。特に久留米に於ては、今や戰鬪酣なわなり、而して、正義の士の盡力實に滿天下の耳目を聳かすに足るものある也。

○震災地の傳道

震地傳道隊の勃興するや、人々、皆な早しと云へり。此の早しと云へるものは、機の到れるを待つて着手すと云ふ義なり。而して今に至るも尙ほ起つ所ろなし。たゞ新聞紙上に之を招く所ろの聲を聞くのみ。傳道會社なるもの果して經綸あらば、今后二三年は彼地方に非常に盡力すべき筈なりと思ふ。而して未だ其策あるを聞かず。

小生來廿三日出發、西京以西、及び山陽、西海、南海の三道漫遊致候に付、凡そ四十日間は惠來の信書に對し、悉答不仕候間、不惡被思召度候、敬白。

嚴本善治。

女報

可愛子編

●皇后宮行啓　皇后陛下には、去る十一日午後二時御出門、靑山御所へ行啓、同五時還御あらせらる、又去る十五日は、午前九時御出門、華族女學校に行啓あらせられたり。

●皇太后陛下の御入浴　皇太后陛下の御養生に御心を注せらるゝは今更申上ぐる迄もなき事ながら、近來は日々大磯より海水を取寄せ御入浴遊さるゝ由。

●後藤伯爵夫人　は爾今毎水曜日午後一時より汎く內外の貴女に面會するとさなし、英佛語通辨人各一名宛を傭入れたる由。

●日本赤十字社幹事副長　日本赤十字社篤志者看護婦人會は、規則第二條に由り、去る七日會員一致を以て大勳位載仁親王妃智惠子殿下を幹事副長に推選し、殿下の承認を得たる由。

●八夫人の寄贈金　本所横網町の安生堂產院は松村しほ子の設立に係るものにて自費の產婦さ施費の產婦さを扱ひ、資本の都合にて現今は施費を每月十名に定め、特志者の寄附金に依つて之を支へ居りし處、公爵三條治子、同毛利安子、伯爵後藤雪子、同西鄕淸子、同大山捨松子、子爵土方龜子、同靑木エリサベット子、及三宮八重野子の八夫人此擧を嘉し、此の程慈善舞踏會の收得金中より金百圓を割きて、同院へ寄贈せられし由。

●野津中將病篤し　廣島第三師團長子爵野津中將が病篤しさの事、目下滯京中の子爵夫人、及び令息、併びに上京工兵少佐の夫人(子爵の令孃)等の許へ電報ありしに由り、孰れも直に出發して彼地へ赴きたり。

●嚴本氏の巡遊　社長嚴本氏には、來る二十三日出發、東海道より中國、四國、九州を巡遊し、女子教育に就ての意見を訴ふるさいふ。

●高須いせ子氏　震災地に在りて、今尾、大垣、根尾ヶ谷の三處に久しく看護の爲に勵かれし高須いせ子氏は、此程出京せられ、麻布長坂町病院內に勵かるさいふ。

●慈善看護婦會　は本鄕森川町に設けられたり、人の依賴により看護婦及び產婆を照會し、看護人、產婆共一日一人二十錢乃至七十錢にて四等に分ちあり、傳染病患者の看護人は、一日一人五十錢乃至一圓なりさいふ。

●萬國禁酒會長の禮狀　本邦各禁酒會より、合計二十弗三十五錢の寄附金を、萬國禁酒會へ送附せし處、此程同會長ウイラード孃より、右金額の受領證さ共に懇篤なる禮狀を送り越されたりさ。

●成立學舍女子部の擴張　今度成立學舍女子部に於ては、從來の豫科、本科の外に簿記、手藝普通の三科を增設し、女子自營の職業を教授するよしなり。

●牧民老公　の入京するや必ず新柳二橋に縱横して捻華折柳の快を擅にするを常

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

とす、此二三年來其事止矣、大河端閣として絶て艷聞の耳朶に觸るゝなし。（東京日々新聞）。

●小笠原島の娼妓　東京府所轄小笠原島の娼妓は、年々增加し目下十三名もありと云ふ。

●各婦人會及び女學校の義捐　三池婦女會よりは金一圓十四錢、高知慈善婦人會よりは金八圓、峰山婦人會よりは古着入莚包三個、甘樂婦人會よりは衣類包一個、網野婦人會よりは古着入莚包二個、開成女學館よりは古着入風呂敷包一個、何れも震災地名古屋基督教徒救濟事務所に義捐せられたり。

●大津私立高等女學校　には基督信者の女學生三名あり。

●京都市の遊廓一致して市會に當る　京都市明治廿五年度歲入豫算中へ新稅源を發見し各遊廓の貸座敷、娼妓、小方、屋形等の賤業者より賦金額の十分の六を市稅附加稅として徵課する議案を出せしを以て、仝業者四千八百餘名は連署を以て同課稅廢止の請願を出せしが其意向如何を窺はん爲め去る四日即ち初日の市會には同業者百名以上傍聽に押掛け、當日は陳情書を各議員へ配附し、又一方よりは無賴漢を利用して各議員の宅へ强迫的に訪問せしめて示威運動を爲し又祇園新地等の溫和派は委員を撰んで市會は議決となるも、內務、大藏の兩省に於て許可を與へられざる樣の運動を爲さんと、委員松尾房直外數名は、四日の夜東上したれば、今後隨分面白き事も出來すべし。（湖南日報）。

●遊廓の主人市會議員たらんとす　大坂市會遊廓に新稅を科するの議あり、遊廓の恐慌徒ならず、會々市會議員半數改撰に屬す、遊廓主人奮て候補者となり打て出づ、若し首尾能く當撰せば大坂市會これより娼妓蹶跋扈せむ、と中央新聞に見ゆ、慨歎に堪へず、廢娼なる哉、廢娼なる哉。

●町藝妓廢止に就て　大阪に於ては、彌來る四月一日より、町藝妓は遊廓內に引移ることゝなるに就ては、此程延期の歎願書を府廳に出せしも許可なきより、同日限り藝妓を止め、更に雇仲居の鑑札を受け、是迄の町藝妓券番は仲居集會所と改名せんとの計畫をなす者もあれば、又一方には天滿の松ヶ枝町紅梅町此花町等にある町藝妓業待合茶屋料理茶屋は言ふまでもなく、他の商家も町藝妓廢止の影響にて自然衰微に赴くに付き、同地の有志者五百餘名は新に遊廓を置くの願書を出さんと此頃相談中なるよし。（大阪朝日新聞）。

●秋風破鏡　浪華の一買人夫は園に黨し婦は菊に心あり、風波家に荒れ、鴛鴦閨に噪ぐ、遂に三行半を催して破鏡の悲を來たす、痴哉。（東京日々新聞）。

●住吉婦人教會　大阪に於ては、此程青山暢外數氏の發起にて、標題の教會を起し、專ら婦人の道德を養成せんと計畫せしに、四方贊成者多く會員七百餘名に及びしかば、去る十五日を卜し住吉松岸寺に於て其開會式を執行し、京都より赤松連城氏も之に臨み演說せりといふ。

●婦人會　去る十二日午後一時より、茨城縣水戶市第二公園弘道館に於て開かれたる同會にては、戶村幾暢氏の伊勢物語の講演あり、來會者二十名許ありたり。

●前橋裁縫學校　仝校は大島廣氏等の創立する所にして、初等、中等、高等、の三科に分ち、去る十三日開校し引續き授業するといふ。

●送別會　山梨婦人會員の一人なる小田切浦野氏は、高等女子師範學校へ入學の爲め本月廿五日上京するに付き、同會員三十餘名の人々は過日同市百石町なる同會幹事竹澤せん子方に於て送別會を催し、福引等の餘興ありて、其翌日は相生數場の前にて一同撮影したるよし。

●共愛會　山梨英和女學校內に設けある婦人共愛會は、創立日尙ほ淺しと雖も會員諸婦人の熱心にて追々盛大に赴くを以つて、此度兼て望みたる如く同會に於て二名の女子を養ひ、衣食とも悉皆之を引受け、一名は女學校內に寄宿せしめ、一名は通學せしむる目的なり、又た同會にては行々病院の一室を借受け、貧困にして藥資を得る能はざる者を施療する見込なりと聞けり。

●岐阜縣下の風教大に紊る　同縣下にて各處修築中の堤防は、甚なくも淫風培養の巢窟となれり、何んとかして矯正の策を建てざれば、その結果曠夫怨婦扨ては私生兒の累々として岐阜の野に横はるを見るに至らん云々と同地より通信ありと朝野新聞に見ゆ。

●廢娼論　岐阜縣にては、一昨年來廢娼論起れば存娼論者現はれ、互ひに演說に筆に是非を爭ひしも、其後暫く靜かに成り居りしが、近頃岐阜市中にても續々廢娼の論起りて、飽くまで意想を貫徹せん爲め、二三の有力家某々等はある團躰を作りて運動せんと目下奔走中なるよし。

●貞婦の賞與　山形縣米澤市大字下矢來町大石誠吉母すゑ子は、平素孝貞の志厚く、殊に夫及舅姑の相尋で病に罹るや、看護周到、且家事を負擔し、幼兒を撫育し、數年の間志操一日の如し、洵に奇特なりとて長谷部同縣知事より賞金五圓を下賜せられたり。

●米澤婦人會　は數名の有志者によりて組織せらる、目下創立の際なれども、會員二十名內外ありて中々有望なり。

●女教師のみを採用す　宮城縣尋常師範學校に於ては、最早三十餘名の卒業生を出すにつき、仙臺市各小學校に幾名の新訓導を採用すべきやは、一般に各人の注目する所ろなるが、遠藤仙臺市長の意見として、女子は授業に精密懇到なり、また俸給も頗ぶる低きを以て經濟上德用なりとの二點より、今回は女師のみを採用することに內決せりといふ。（東北日報）。

●宮城女學校文學會　は其第十三回を、去る四日午後三時より同校講堂に於て開會せり、各會員の奏樂、文章朗讀、唱歌等あり、終りに東北學院長押川方義氏の演說ありて閉會し、來賓各生徒教員一同食堂に會して晚餐の饗應ありたり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

●富井女紅場長岡分場　新潟なる富井女紅場は、製繡と傍らハンカチーフ製出を目的として開場せるものなれど、目下製繡の教員なきためハンカチーフ製造のみ重とし居るよしなるが、長岡の某々有志數名は今度同場の分工場を長岡に設立せんとを計畫し、既に富井女紅場との約束も調ひ、同場生徒山本某を教師として雇入るゝとに決せし由。

●藝妓を一廓內に移轉せしむる建議書　去る七日雲州松江市和多見新地貸席營業者增田祐七外數名より一の建議書を松江市會に提出したるに、同會は之を受理したるよしなるが、其趣旨の大要とする所は、同市藝妓營業者は殿町初め各所に散在して其業を營む事なるが、かくては第一市の躰面を汚がし、第二風教に害ある事第三梅毒傳染の傾向あるを以て、宜しく之を花街內の一廓へ移轉せしめ、而して其取締りを嚴重にせざるべからずと云々との趣旨なりと云ふ。

●邇摩安濃兩郡裁縫會　去る六日石見國安濃郡大田高等小學校に開設す、發起者は訓導田川きよ子氏にして當日出席者は訓導園山ゑつ子、伴すゞ子の兩女史、其他諸雇助手及兩郡各學校訓導二十八名あり、當日會場には石見女學校より贈付せる裁縫品數點を陳列せりと。

●進德會へ寄附　香川縣高松市南紺屋町近藤やす子、同田町伏見りう子、同旅籠町深井つれ子、同西通町野口とよ子の諸氏は、此程各金五圓を同會附屬進德女學校へ寄附せられたりと云ふ。

●長濱婦人會　愛媛縣喜多郡長濱町の同會は、都合ありて一應閉會することとなりしが、有志者は同志者を募り組織を改めて、更に婦人會を創立せんと昨今奔走中なり。

●久留米に於ける娼樓新設の議に就ては、正義の靑年奮て之に反對し正々堂々の運動をなすといふ。

●鹿兒島婦人會　の諸婦孃が愛岐震災地の不幸者の爲めに催されたる慈善會の一義擧は全く諸多の殘務も結了して、去る一日金壹百八圓拾貳錢を該地に向て寄贈せられし由。

●婦人會　北松浦郡の西北端に孤立せる一小島たる大島の女子中には曩頃婦人會を組織し、親睦を圖り婦德を增進するを目的とし、自分等の談話討議勉學を爲するのみならず、時々講師を聘して講談を依賴し、毎月二回（第一日曜第三日曜）開會、專ら德操を修養し風紀を正うし廉恥を重んじ、漸次風俗品位を高尙ならんことを期し居れりと。（鎭西日報）

●靜岡縣通信　◎靜岡市高等小學校訓導木原從子は、此度女子高等師範學校入學試驗及第、本月二十五日上京を命ぜられたり。

●京都通信　◎去る五日、一婦人或人を經て、同志社女學校に金十圓を義捐したり、尤も名を公にするを好まずとて、其名更に知れず、女學校々員一同は大に其情に感奮せり。◎世界視察の途次、京都に立寄られたる萬國浸禮教會の書記ゲーツ夫人は、去る六日、日曜の夕、同志社女學校に於て談話あり、看病婦學校の生徒も來聽したり。◎高等女學校にては、本月上旬定期大試撿を行ひたれば、新入生を募集せらるゝが、其人員は本科に五十名、豫科に六十名、和服裁縫に三十名、唱歌專修科に十名なりと、同校は爾后地久節には業を休し奉祝意を表すると、入學生は尋常小學卒業后は無試撿にて豫備科に入り、高等小學第二級卒業以上は無試撿にて英語のみを試み本科に編入する由、又別科生とても爾來脩身科を加入する由。◎師範校女子部は試撿を了へたり、未だ及第落第は明らかならず。◎此度京都尋常師範校に入學に受驗せし生徒は、第一種生八名、第二種生十四名なりしが、入學許可せられしは、（第一種生）新宮ふみ子、西村ふく子、大西ひで子、辻すえ子、（第二種生）渡邊とき子、菖蒲池すみ子、天川せい子、大澤ちつ子、井上いわ子、岡本いさ子、淺田しづ子、濵谷こう子、安部田佳枝子なり。

●三重縣通信　◎女子高等師範學校入學　三重縣私立女學校生徒長田たつ子は、本縣知事の推薦により、去る一月中高等女子師範學校の入學試業に應ぜられしが、今度同校の撰拔を受けて本月廿五日までに上京入學の沙汰ありし趣きなり右に付同校生徒諸氏は、去る二日同窓會の臨時會を開きて送別の式を擧げたりと。◎結婚　三重縣尋常師範學校の校長菅沼世經氏の令孃は、工學士石川石代氏と結婚せられ、私立三重女學校の教師中矢四郎氏（慶應義塾出身）は、中學校の教師森某の令孃（十七）と、近々の內結婚せらるゝ由。◎養正同窓會女子部　養正同窓會は男子部と女子部とに分かれ、總計四十三名にして、男子部とは、別に獨立して、時々會合せしが、同一の會員にてかく別々に會するは、いと面白からぬとて〻、勿論春秋の大會には一處に會合すれど〻合併論起りなかく〳〵に勢力あれば、日ならずして實行せらるゝとならん。

●廣嶋縣通信　◎傘の出品　廣島は傘を以て其名世に顯はる、過般市內の傘商は一同申合せの上、今度開設の「コロンブス」世界大博覽會へ當地產の傘二十餘本を出品せんと、已に其筋へ出願したるが、此の傘は一本の價八錢以上三圓五十錢以下位の物、而して其製造者は婦人も亦た此の一部分なり。◎最末試驗と定期試驗　當市高等小學校にては、二月廿九日より同校第四年級男生十八名の最末試驗と、第二年級女生十八名の定期試驗を施行したり。◎廣島英和女學校　は燒失以來久しく建築に取掛らざりしが、昨今より工事に着手尙ほ同校に附屬幼稚科を設け、目下生徒二十四名にして、教員は甲賀、黑田の女教師の外數名の助教にて教育中、而して英和女學校は爾來倍隆盛に赴き、目下生徒四十名の多きに至れり。◎廣島高等女學校　に於ては、去る二十七日數名の卒業試驗を施行せり、同日案內を受けたる紳士貴婦人新聞記者僧侶にして、終りに酒肴を以て饗待したるは、吾人が最も女子教育の弊害として論駁する所、知らず教育者は之を以て人間の德行を進むるとを得べき乎。◎娼妓免許地の工事　嘗て吾人が數々報道したる本市遊廓吉原摸擬の工事は、今や竣功近きにあり、而して昨今に至るまで家屋の建築を申込みたる者六十餘名、今や數百の惡魔は蟻集して此の良民を惱まさんとす、一部の新聞記者說をなして曰く、矯衛會萬歲と、嗚呼何等の怪事ぞ。◎母の會　はコルテス氏の夫人が今般設立したる育兒法講習會なり、老幼の婦人若干集會して歐米育兒法を硏究す、德と賢を養ふの會、請ふ倍盛なれ。◎廣嶋女學校　吾人が再三再四是れが通信の勞を取りたる廣島女學校（一名娼妓學校）は、今や一大札を堂々たる廣島市の中央に掲げて曰く、廣島女學校、廣島女紅場と吾人は其名稱の一變して世に出づる毎に良心の理解が益怪を覺ふ、敢て問ふ之れを見、

之を聞く所の國民は、如何なる感を起す乎。

●高知縣通信　◎高知縣尋常中學校女子部卒業生高田千鶴子、高知縣尋常師範學校女子部三年級生吉田廷子の兩女史は、今般女子高等師範學校へ入學許可せられたり。

●朝鮮の女子　朝鮮に於ては、男子の遊惰なるには似ず、女子は勞働するの風ありといふ。

●婦人基督教徒禁酒會　一千八百七十四年に創り、福音主義に從て、文明世界に禁酒、矯風の事業を擴張するを以て目的とす、一國同盟の下に一萬の地方會あり少年矯風軍を加へて殆んど五十萬の會員を有し、シカゴに十五萬弗の資本を有する大印刷所、講堂、禁酒病院、禁酒堂等を有す、加拿太にも亦同樣の會あり、千八百九十年に婦人、非黨派、國民基督教徒禁酒會てふものを組織す、其外之と類を同じうする者、國民禁酒同盟、監督新教會禁酒會、基督教會酒類廢止會等あり其會員四萬に及ぶ。

●英國の女學生　英國の新聞紙は倫敦大學に於ける學士の學位を受くる者婦人の方多きことを掲げて婦人も亦男兒と立派に對抗すべきものなることを論ぜり、古文料に於て第一級は五名の貴女と唯一名の紳士あり、佛語科に於て第一級の名譽を得しは三名の貴女と一名の紳士なり、教授法に於て及第せしは五名の貴女と一名の紳士なり、經驗的物理學の第一級に最も成功ありしは若き婦人なり、本草學に於ても亦同じ。(以上二件護教)。

●皇太子及同妃の御出發　(三月十一日倫敦發)
皇太子及び同妃の兩殿下はメントンに向け出發在せられたるは、皇太子殿下御發生の爲めなり。

●女子に選擧權を與ふ　英國政府提出の愛蘭地方自治案、女子に選擧權を與ふ。

●結婚申込人二万人　探撿家談話家として有名なるポール、デー、チルリー氏は、亞非利加探撿中結婚を申込む者二万人の多きに逹ひたり、而して一日中に八百十五人の申込人ありたり。

●チスボルン婦人の判決　(三月十日後報倫敦發)
有名なる寶石事件の被告人チスボルン婦人は九箇月の禁錮に處せられたり。

●米國の婦人　は英國女皇陛下に齒氈を贈りたり、其の齒は千八百七十一年アラバマ事件を仲裁せんがため兩國の委員會合論議せし所を寫せし者なり。

●米國中父母同權の州　は僅にアイチワ、子ブラスカ、カンサス、チレゴン及ワシントン等なり、此等の州に於ては、子女を養育するの權父母全く同一なり。

●エミルデラベレーエ氏　スペーカーは氏に就きて左の如く記しぬ、
エミルデラベシーエ氏はインフルエンザ病の爲め遂に逝去さられたり、實に歐羅巴は稀有なる一人を失ひぬ、氏は世の所云る政事家にてはあらざりき蓋し政治家と普通稱する處の者は彼が與ふる一國の希望及位置に必らず密接し其責任は其一局部のみにして愛國心なる語は博く普れからしむるの自由なく即歐羅巴の政事家なる者なければなり。されど世には政事家にして國民間黨派間の爭ひ又は特更らに一國のみの利益を計る等の事には何時も中立し只管ら人類社會の公益を計り政治を行はんとする者あり今此ラベレーエ氏は其一人なり而して氏ベルジアム國の中立平和會に於て人類一般の政治法を唱道する主任者と仰かれたり。氏はカトリック教徒に生れしかど早くより其教法を脫し其が政治及社會問題の諸說は純然之より脫離し嘗て著せる一小册子にはプロテスタント文明の價値を縷々顯揚せられたり而して氏は全く基督教の教圍內に服せざるも其社會上政治上の思想は共に基督の王國及其教を主旨とせられぬ。其道德上の問題に非常なる注意を用ひ特にジヨセフインバットレル夫人創設の不正行取締の法律改良會なるもの丶會長となり遂に政府は政治の上よりも矯風の上よりも必ず社會改良會なるものと同意運動せざる可らずと熱論し其論辯は年々に愈々熾んにして彼の昨年ブラセルツ大會の席にて今となりては氏が最後の演舌などは皆此一の精神より出しものなり。氏が性德は思想及言語の明亮にして秩序の整ひたる世の人の及び難き所にして就中氏が種々なる見識の博きとは全く博く書を拔渉したるの結果のみならず多くは廣く旅行し若くは自ら實驗研究せるによると云ふ、實彼が觀察の弘きとは恐らく世の事物中彼が見聞に觸れ智識せざるものなからん即政治上の活務より農業上のと糖蜜の製法に至る迄併に一己人及名家の各傳記動植物の性習其他氏が諸國を旅せる時名の知らるゝ程の人とは悉く面悟し爲に其が朋友知人は殆んど全世界に散在せると加ふるに其交際の普きとは或時は名ある政事家と論議し又ある時は下宿屋の女主又は路傍の勞働者と親話しては其解易き語調もて吝なく己が智識を頒たんとするの心は却て自からに多く得つゝあるなり。氏が性狀及其見識の博きと等は氏が發刊の雜誌及バルカン伊太利等よりの書狀にも明かなり。其性質の溫和純美なる又の一を擧れば用益と歡樂とに滿たる氏が住居は常に朋友の最大最良の快樂となれり、氏又音樂、花園建築等を好み特に氏が最愛の小犬は時に寒天には常に胸中近く上着の下に懷き散步し舟に漕き或は種々の樂みを共にせりと、常に滿足し義務心深く希望と信實と勇氣もて智識の光とし世を益する事に吸々し眞理と見ては之を信じ之を人に知らしむる人とは實に此ラベレーエ氏をこそ云べけれ。

●ウエリシユレビウ上にてスチード氏がサーチヤーレスヂルク氏のフレストチフデーンの候補者たる事に就き辨難せる事に對して有名なる一國會議員は一度墜落せる一政事家を再び下院內に入らしむる事の希望を以てレビウチフレビウスの記者を訪ひ語りて曰く彼が所言は酷に過ぎたるものならずや、彼は既に五ヶ年間退隱の身なりき實に彼のみならず誰にてもあれ五ヶ年は十分の退院なり寧ろ彼が意のまゝに任せて係らざるに若かずと。スチード氏之に答へて曰く余は只彼が且て一度吐きたる語を保ち彼が再び政治界に加進せざる前其再三明言せる如く法律上彼が所行を辨明する事を望むなりと。今ヂルク氏がブリチシユ國民の前に以前

の名望ある位置を快復せんとて二つの辨護を爲せり、一は氏が寃罪たることと且つ義に死するの人たる事一は政治家たりとも一私人としての所行の公共の運動に關係なきこととなり。スチード氏は此第一説を説破し曰ける樣如何なる裁判官もサーチヤーレスヂルク氏は謀反者或は僞誓者の犧牲となれりとは信ずまじと。スチード氏に詰問せる國會議員すら又氏を冤罪とは假定だもせざりき故に曰く誰しも彼が寃罪なることを不諾の人はなからん只彼自身すら一度言出せしにより寃罪なりと云張らざる可らざるにそれすら猶力弱くは見へ初めぬ、故に只彼が爲すまゝに暫らく傍觀せよと、又スチード氏曰く然り彼れ若し僞辨を讒み眞を告白せば余は同時に辨難を止めん實に微々にても彼を知り彼が働を讃する人は其關係の公私の如何に係らず彼が寃罪を容るゝ人なし實に彼が罪否に關しては最早論究する迄もなき程なりと、

斯かるが故にフチレストチフデーンの撰擧者は此一度犯罪せるのみならず猶世に向て罪なしと主張せんとする而して大なる僞計もて歎き彼の女が誓言を破らしめたる其婦人に猶關涉せんとする僞誓者を下院の代議者とせんとの望を棄てよとて呼はれぬ。害を彼寃罪なりとせば其疑惑を被むるの初に於て既に判庭にて證明すべきなり又曰く既に衆目の認定する處假令今彼證據を擧げて證明するも人民は之を是認せざるべし。彼既に五ヶ年の星霜を暗影の間に送りぬ後來一身の進退及其名望に於けるも又子孫に迄も及ぶべき名聲に關しても彼は到底冒を透徹すべきの價値なし況んや舊徒舊名を快復するに於てをや彼其初一千八百八十六年に宣告を受くるや辛くして七ヶ年の服役を脱れぬされど最早再び逃る可らざるなりと。スチード氏を初めとし彼が政權快復に反對せる一般の人たりとも皆後悔せる罪人を苦しむるを欲せざるなり只彼に於て其徵なきを如何せん、而して又假令彼非を悔悟するも時機既に後れぬ。只少くとも其兆の見へざる限りは社會の戸を愈々固く密閉して彼が入來を容さゞるなり。

スチド氏又ヂルク氏の爲に誘惑せられたる可憐の婦人に付き記して曰く婦人は明かに罪を告白し塵よりも卑きがごとく己れを恥ぢ謙遜りてセントフランセスの信仰箇條に服し謹愼と謝罪に日を送りける然るに誘惑者たる彼は自からの誹謗を雪がんとて却て婦人を愈々誹謗い點となし其罪を之に歸せんとはなしぬ。實にあらゆる風評の中姦淫の罪よりも卑しく精神なき行は他に見出し能はざらめと、サーチヤレスヂルク氏こそ實に謹愼と謝罪の日を送らしめたきなり。彼ほどの深き暗雲を身に負ひて猶すた脱し昔への同等の所に名譽の地位を快復せんと企望するは驚べき人とこそ云べけれ、特にフチロレストチフデーンノ非國教者は此が黑白の判決の速かならんを熱注せりそは若しフチレストの非國教者にして此事件に敗服したらんには彼のパーチル如き名士にさへ其が願望を防ぐに瞬時も逡巡たらざりし彼の愛蘭士カトリツク教徒に比して其名も稍や低き人に對しては猶非常なる不便たる可ればなり。故に同徒は此事の落着を企望す然らずんばそが過失は彼全體に負ひ來る可ればなり。

品名	三月十七日
白米（一円ニ付）一等米	一斗〇升〇合
二等米	一〇一
三等米	一〇三
四等米	一〇六
五等米	一一二
正米（一円ニ付）越中米	一斗四升五合
伊勢米	一三五
南部米	一四九
行方米	一三八
一志米	一三五
雜穀（一円ニ付）本貫大麥	二斗九升〇合
上州小麥	一六五
竹林麥	一八〇
梅澤大豆	一九七
青柳大豆	一九七
吟小豆	一七三
白胡麻	一二〇
黒胡麻	一四二
鹽（一円ニ付）赤穗	三、二五（俵）
大鹽	三、三五
本齋	五、五〇
新齋	五、八五
醬油（一円ニ付）最上・極上・上物・中物・並物	（樽分頒）七四　七九　八七　一、一〇〇　一、三〇〇　一、六〇〇　一、八〇〇　二、〇〇〇　二、一〇〇　二、七〇〇
味噌（一円ニ付）地製上白	六、八〇〇（貫）
同上赤	六、八〇〇
同紅赤	四、三〇〇

品名	三月十七日
真綿（一個ニ付）上々入金	一一三、〇〇（圓）
上入金	一〇五、〇〇
並入金	九八、〇〇
松入金	九〇、〇〇
竹入金	八五、〇〇
梅入金	八〇、〇〇
絹糸（一圓ニ付）本練花色	二七〇（匁）
同色物	二五〇
羽二重糸	二四〇
延糸色物	三三〇
芥子糸色物	二九五
同湖色	二四〇
極天色物	二三五
色物太練	二五五
紡績糸	四五〇
八王子織物（一反ニ付）本糸織	四、二五（圓）
同替寸	五、五〇
同珍柄	七、〇〇
節糸織	三、五〇
同瓦斯入	二、〇〇
一樂織	七、五〇
飛地黄八丈	四、〇〇
黒地黄八丈	三、五〇
岸絣	二、五〇
玉八丈	三、〇〇
甲斐絹	三、五〇
同本嶋	四、五〇
黒八丈	八、〇〇
黒七々子	五、〇〇
白斜子	六、〇〇
嘉平治平	五、〇〇
節仙臺	七、〇〇
仙臺平	八、〇〇

品名	三月十七日
製茶（一貫目ニ付）山城江州稀大頭	二、五五（円）
同稀頭	二、一〇
同大頭	一、七七
同中頭	一、五五
同中茶	一、二〇
狹山稀大頭	二、〇〇
同稀頭	一、七五
同大頭	一、五〇
同中頭	一、四〇
同中茶	一、一〇
鰹節（十貫目ニ付）土佐上	二四、五〇（円）
薩摩大	二〇、〇〇
城の腰大	一七、〇〇
房總大	一五、〇〇
銚子大	一四、五〇
乾海苔（百枚ニ付）洲崎	八〇（錢）
大森	八〇
深川砂村	八〇
大師河原	六五
潮田	五五
上總	五五
水油（一樽ニ付）地水	六、五〇（円）
胡麻	一〇、五〇
荏油	九、九〇
桐油	六、〇〇
冬	七、五〇
坂水	七、五三
石油（一箱ニ付）チヤスター	（円）
ダボース	
ホーキ	一、六八
ロシヤ	一、六六

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

生徒募集廣告

●地方延着者ノ爲メ來ル三月三十日午前九時各科入校ニ并編入試驗ヲ行フ志願者ハ前日迄ニ申込アレ

●講義錄（政治、司法、行政）各科共去十月ヨリ毎週定日ヲ以テ發行シ校外生ヲ募集ス有志ハ速ニ申込アレ●規則書望ノ者ハ通知次第送致ス

東京牛込早稻田
東京專門學校

産婆 本郷森川町一番地百七十號 慈善看護婦會內同居 **玉生くに**

女醫 下六番町六番地明治女學校內にて外來患者を診察す（校醫） **荻野ぎん**

迎接日 木曜日午後三時後 **巖本善治**

女學雜誌取次賣捌所

東京々橋區尾張町二丁目東海堂　仝神田武藏屋　仝京橋區彌左衞門町巖々堂　仝京橋小西新聞舗　仝京橋區木挽町一丁目万字堂　仝神田錦町三丁目五番地朝陽堂　仝芝櫻川町萬春堂　神戸元町四丁目福音舍　大阪東區備後町四丁目岡島支店　京都佛光寺通烏丸東へ入ル東枝律書房　熊本市南新坪井町草野書店　大阪士佐堀三丁目福音社　盛岡市中橋通東北堂　京都河原町二條下ル二丁目大黑屋　宇都宮日野町小林格　神戸下山手通三丁目望榮堂

第三回 婦人問題演說

本郷區弓町壹丁目貳番地壹岐坂會堂に於て來る三月廿六日午後四時（第四土曜）より第三回の婦人に關したる演說會を催すにつき諸姉の來聽を希望す辨士及演題は左に

獨逸婦人の教育 日本語 日本 獨逸婦人 ヂルクス孃

女學書類發行 女學雜誌社編輯

家庭廉價 子供の談

紙數八十葉 郵税なし 定價十二錢

右は子供の爲になる好きお話にて、母親が言ひ聞かすに結構なる材料なり。第一、田舍音樂師。第二、董の君。第三、熊と旅人。第四、風と日の喧嘩。第五、ハイ〳〵とタヾイマ。第六、カンとクッド。第七、王にも勝てる人々。第八、母の愛。第九、柔順なる娘。第十、英雄の所業。第十一、まましき兄妹。第十二、正直な樵夫。第十三、慾婆。第十四、忠義の家來二人。第十五、不思議の新衣裳。第十六、小娘とガマ。第十七、尤も惡き所行。第十八、正直なる小娘。

西洋女禮

紙數六十七葉 郵税なし 定價十二錢

右は、婦人紹介の事。婦人書面紹介の事。婦人訪問名刺の事。婦人會話の事。婦人案內の事。散步、かざり、宴會の事。食卓上の心得の事。婚姻の事。客を遇する事などに分ち、西洋貴婦人の心得を一と通り平易に解明したり。

女子生理

紙數百九十葉 郵税なし 定價廿五錢

右は、月經の事。懷姙の事。分娩の事。の三つに分ちて、くはしく女の生理の事を說き。且つ長谷川泰氏が婦人病の元因、村岡範爲馳氏が眼鏡の話と云へる二つの論を附錄としたるもの也

和畫案內

紙數百廿葉 郵税なし 講述にかゝるものなり 定價五錢

兒育て草

紙數百六十葉 郵税なし 定價二十錢

右は育兒の心得を問答躰にして、人の氣のつかぬ細かなる事迄て一々說明し、母として子を育つる總ての心得を悉とく講述したり。

邦文學

紙數百六十葉 郵税なし 定價二十錢

右は同志社教師松山高吉君が講述にして、和文躰の文法、語格を、極めて細密に說明したるもの也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

通信女學第三期生新募廣告

學問隆盛の今日、女學の進歩一と方ならず、凡そ年頃の娘君にして奮發學に就かぬは最と／＼少なく、既に一家の妻となりし方にても晩學の勉强をさ／＼年少の人に劣らぬも多し、概して何處の婦女子も皆學問と云ふとに心掛け凡そ此心掛なきものは當今の女徳に欠けしやう思ふに至りぬると明治の代の恩澤にて有がたきとと云ふべし、因りて何處にも女學校の設けあり何處の娘君も玆に入學して日々の進歩目覺しきとなるが、既に妻となり母となりて一家子女の掛念ある方々最早家を出て通學することも出來ず又家に敎師を引て敎を受るも甚はだ手數なれば今日の時世に斯る御婦人のみ此儘無學に終るべきかと心配する人も少なからず、此類の御婦人は何か家に在りて獨り稽古する工夫なきか又獨學に便利し書物はなきかと屢ば問合せあり、吾社之を以て遂に意を決し、昨及一昨年一月通信女學の仕組を新設し、毎月一冊の講義を出版して、四方晩學の婦人居ながら普通の女學を獨り學びするの便に供へたるが、其の十二月に至り、一ヶ年の課業を恙がなく卒へて、快ちよく全科を卒業したるもの八百餘名あり。然るに、去年一月申込の期に後れたる人々も少なからざるを以て、本年更に講義錄を再版し、改めて第三回の習讀者を募る。

敎授科目左の如し。

萬國史、日本歷史、算術、簿記、理化學、生理學、動植物學、作文法文例、料理、歌詠方、女禮、和文讀本、漢文讀本、家政學、(衛生、育兒、看病を合す)裁縫、圖入地理、英學。

敎師は、醫學士三島通良、農學士寺尾熊三、吉田仲子、渡邊辰五郎諸氏其他重もに明治女學校の敎員諸君に委賴し、專ら深切鄭寧を主意とす。

代價一冊前金三十二錢(無郵稅)、半年分前金一圓八十錢、一年分前金三圓五十錢、一切前金に非れば發送せず。

明治二十五年一月廿五日第一號を發兌し、以後每月廿五日に出版して翌一ヶ月中の科目となし、其十二月に至りて全科卒業となす。

東京麹町區下六番町六番地　**女學雜誌社**

鈴木弘恭大人講述　附錄小倉てびき

第四版 百人一首講義

正價金廿八錢　郵稅四錢

御高評を得たる百人一首新年に至り注文いよ／＼多く第三版品切に成りたれば玆に第四版を印行し、且つ「小倉てびき」と云ふ、極めて便利の見出を添ゆ、之によりて、百人一首それ／＼の歌の句の在り處、意味、よみ手などを直ちに見出すとを得る至極重寶の案内書あり。

東京麹町區下六番町六番地

發兌元　女學雜誌社

賣捌店

○東京。瑞穗屋、丸善、小林、東海堂、武藏屋、東京堂、巖々堂、春陽堂、中西屋、布美乃屋、重陽堂、誠之堂○橫濱。丸善○京都。東枝律、大黑屋○大坂。福音舍、岡島、梅源○神戶。福音社○熊本。草野○函館。福音舍

鈴木弘恭先生口述　一名國文敎科書

雅俗諸躰 作文口授　全

此書ハ大人カ各學校ニ於テ實地ニ授業シタル者ヲ筆記シタルナレバ國文ノ作例ハ勿論許多ノ熟語ヲモ學ラレタリ此書ヲ一目セバ如何ナル初學ト雖モ消息記事論說諸躰ノ雅文ヲ立所ニナシ得ラルベシ諸君速ニ購テ試ミ給ヘ

出版所　神田美土代町四丁目五番地　敬文堂

賣捌所　麹町下六番町六番地　女學雜誌社

發行所　東京市麹町區下六番町六番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

通信女學期生募集廣告

學問隆盛の今日、女學の進歩一と方ならず、凡そ年頃の娘君にして舊發學に就かぬは最と〳〵少なく、既に一家の妻となりし方にても晩學の勉强をさ〳〵年少の人に劣らぬもの多し、概して何處の婦女子も皆學問と云ふことに心掛け凡そ此心掛なきものは當今の女徳に欠けしやう思ふに至りぬると明治の代の恩澤にて有がたきことゝ云ふべし、因りて何處にも女學校の設けあり何處の娘君も茲に入學して日々の進歩目覺しきとなるが、既に妻となり母となりて一家子女の掛念ある方々最早家を出て通學することも出來ず又家に敎師を引て敎を受るも甚はだ手數なれば今日の時世に斯る御婦人のみ此儘無學に終るべきかと心配する人も少なからず、此類の御婦人は何か家に在りて獨り稽古する工夫なきか又獨學に便利し書物はなきかと屡ば問合せあり、吾社之を以て遂に意を決し、昨及一昨年一月通信女學の仕組を新設し、毎月一冊の講義を出版して、四方晩學の婦人居ながら普通の女學を獨り學びするの便に供へたるが、其の十二月に至り、一ヶ年の課業を差がなく卒へて、快ちよく全科を卒業したるもの八百餘名あり。然るに、去年一月申込の期に後れたる人々も少なからざるを以て、本年更に講義録を再版し、改めて第三回の習讀者を募る。

敎授科目左の如し。

萬國史、日本歷史、算術、簿記、理化學、生理學、動植物學、作文法文例、料理、歌詠方、女禮、和文讀本、漢文讀本、家政、學(衛生、育兒、看病を合す)裁縫、圖入地理、英學。

敎師は醫學士三島通良、農學士寺尾熊三、吉田伸子、渡邊辰五郎諸氏其他重もに明治女學校の敎員諸君に委賴し、專ら深切鄭寧を主意とす。

代價一冊前金三十二錢(無郵稅)、半年分前金一圓八十錢、一年分前金三圓五十錢、一切前金に非れば發送せず。

明治二十五年一月廿五日第一號を發兌し、以後毎月廿五日に出版して翌一ヶ月中の科目となし、其十二月に至りて全科卒業となす。

東京麴町區下六番町六番地　**女學雜誌社**

第四版　百人一首講義

正價金廿八錢　郵稅四錢

御高評を得たる百人一首新年に至り注文いよ〳〵多く第三版品切に成りたれば茲に第四版を印行し、且つ「小倉てびき」と云ふ、極めて便利の見出を添ゆ、之によりて、百人一首それ〳〵の歌の句の在り處、意味、よみ手などを直ちに見出すとを得る至極重寶の案内書あり。

東京麴町區下六番町六番地　**發兌元　女學雜誌社**

賣捌店

○東京。瑞穗屋、丸善、小林、東海堂、武藏屋、東京堂、巖々堂、春陽堂、中西屋、布美乃屋、重陽堂、誠之堂○橫濱。丸善○京都。東枝律、大黑屋○大坂。福音舍、岡島、梅源○神戶。福音社○熊本。草野○函館。福音舍

作文口授　全

鈴木弘恭先生口述　一名國文敎科書

雅俗諸躰

此書ハ大人カ各學校ニ於テ實地ニ授業シタル者ヲ筆記シタルナレバ國文ノ作例ハ勿論許多ノ熟語ヲモ擧ラレタリ此書ヲ一目セバ如何ナル初學ト雖ヒ消息記事論說諸躰ノ雅文ヲ立所ニナシ得ラルベシ諸君速ニ購テ試ミ給ヘ

出版所　神田美土代町四丁目五番地　敬文堂

賣捌所　麴町下六番町六番地　女學雜誌社

發行所　東京市麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三